

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

| 基本方針 | 提供するサービス | 事業内容 | 指標 | (参考) 令和5年度実施事業の評価 | | | 令和6年度実施事業の評価 | | | | |
|------------------|------------------|--|---|---|---|---|--|---|---|--|--|
| | | | | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員の意見等 | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員等の意見 |
| 1 市民の生涯学習を支える図書館 | (1) 貸出し・閲覧サービス | ア 幅広い分野の資料をバランスよく揃え、魅力ある書架を構成し、貸出し・閲覧サービスを行います。 イ 利用者の求める資料を探しやすいうように配架し、読書を楽しむ十分な閲覧スペースを設けます。 ウ 未返却資料がある利用者には、貸出しの制限を行い、利用の公平性を保ちます。 エ 市内に活動拠点を置く団体やグループが、より多くの読書を活用できるように団体貸出を行います。 | ・所蔵資料数（図書、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルム） ・貸出数（図書（雑誌含む）、視聴覚資料） ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数） | ・所蔵資料数 図書1,572,175冊 雑誌1,394タイトル 視聴覚資料66,797点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,639,619冊 視聴覚資料135,377点 電子書籍 タイトル数11,933点 ログイン数25,318回 閲覧貸出数34,011点 | B 魅力ある書架を構成するために不用となった資料（情報があつたものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・電子図書館に子ども向けの読み放題コンテンツを購入し、さらなる利用拡大を図った。 | ・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・学校でも利用しやすい電子コンテンツの拡充を検討する。 | 貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える図書館職員の存在である。府中市立図書館はこれらが揃っており、評価したい。 蔵書については、これまでの積み重ねも含め、豊富な資料群を収集し提供している。令和5年度も寄贈資料を含めると30,000冊近い資料が新たに加わった。新鮮な資料の補充は、利用の活性化を促すことにつながる。それを可能にするのは資料費の確保である。毎年減少傾向にあるが、資料費の充実に努めてもらいたい。 非来館型サービスとして電子書籍の提供も始まり、ログイン数も増えている。電子書籍の特性（音声読み上げなど）を活かし、今後も充実に努めてもらいたい。また、利用方法を高齢者や子どもにも周知する必要がある。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識してもらいたい。 除籍処理については、「府中市立図書館資料保存基準」及び「府中市立図書館図書資料等除籍要綱」に則り、適切に行われている。 | ・所蔵資料数 図書1,582,419冊 雑誌1,363タイトル 視聴覚資料67,152点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,544,933冊 視聴覚資料120,227点 電子書籍 タイトル数13,176点 ログイン数28,508回 閲覧貸出数38,708点 | B 魅力ある書架を構成するために不用となった資料（情報があつたものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・教育委員会が実施している、不登校の児童・生徒を対象とした仮想空間（VLP）の中に、電子図書館のリンクを貼り、児童・生徒が図書館で利用登録をなくとも電子書籍を読むことができるようID・パスワードを発行した。 ・市立小・中学校においてタブレットで電子書籍を貸出する一環として、市立小・中学校の児童・生徒がタブレットで電子書籍を読むことができるようID・パスワードを全児童・生徒に一斉配布する準備を行った。また、子ども向け読み放題コンテンツの拡充を図った。 | ・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・電子図書館の学校連携事業が開始されたことに加え、市立小・中学校における授業や朝読書、自宅での学習等において積極的に利用してもらうため、電子書籍の子ども向けコンテンツを充実させる。 また、その活用方法についてもPRを行っている。 | 昨年の評価でも指摘したが、貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館には、それが揃っており評価したい。 蔵書数の多さが府中市立図書館の魅力の一つである。様々な世代、興味・関心に応じられるよう、引き続き幅広い図書資料の所蔵に努めてもらいたい。それを支えるのは、資料費であり、一定額を確保している点も評価する。今後も現状の水準を維持してもらいたい。 一方で、充実した蔵書は読書に興味・関心のある人や、調べ目的の人にとっては魅力となるが、図書に関心のない人も多いため、児童・生徒を対象としたイベント、学校での読書活動の充実や読書の取り組みなど、子どもの頃から読書に親しむ機会を作ることが大切である。また、話題の映画・ドラマ等に関連した特設など魅力的な企画の実施、市が企画するイベントなどの展示コーナーの設置、それに対する広帯域を積極的に活用するなど、市民が府中の図書館に付きたくくなるような働きかけも必要である。 電子書籍の提供も順調で、ログイン数も増えている。今後もコンテンツの拡大に努めてもらいたい。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識する必要がある。電子図書館は、24時間利用可能で、利用者の利便性が大幅に向上する効果もある。一方で利用できる資料の数が限られていること、インターネット環境がないと利用できないこと、そして資料の保存ができないことなどの不利な点もある一方で、使い方の講座などを開催し、分かりやすく周知するようにしてもらいたい。 市立小・中学校の児童・生徒がタブレットで電子書籍を読むことができるようになったことに期待すると同時に、活発に利用されるように各学校で使い方のレクチャーを徹底してほしい。また、VLPの中に電子図書館を置き、電子書籍を読めるようにしたこととはとてもよかった。居ながらにして、読むことができる電子図書館の活用は児童の読書の量と質を高める可能性もあり、時間をかけて丁寧に行ってもらいたい。 不登校児童への取り組みも高く評価する。不登校児童の問題は今後も多様化していくと考えられ、電子図書館を使って子どもが外出せずに図書の世界に接することができることは有意義である。 なお、電子書籍では味わえない本の魅力もある。その点を子ども達に伝えていくことも図書館の大切な仕事であることも抑えておいてほしい。 他市との共同利用協定は利便性が高く、効果的で市民にも喜ばれているので、範囲を拡大することも検討してもらいたい。 ※VLP…インターネット上に構築された3次元の仮想空間で、パソコンやタブレットなどの端末を通して、タブレットを操作し、コミュニケーションをとることができる教育支援ツールのこと。利用者の日常的な利用を想定し、様々なコミュニケーション機能を実装している。 |
| | (2) 予約・リクエストサービス | ア カウンターや電話での予約に加え、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）やインターネットからの資料の予約など、利用者のニーズに合った予約方法を選択できるように環境整備に努めます。 イ 利用者が望む資料について、可能な限り迅速な資料提供を行います。 ウ 所蔵していない図書や雑誌のリクエストは、購入及び他自治体の図書館などとのネットワークを活用した相互貸借を行うことで、利用者の資料要求に応えます。 エ 視聴覚資料及び電子書籍について | ・リクエスト受付件数（図書、雑誌、視聴覚資料） ・都内公立図書館からの借用件数 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数 | ・リクエスト受付件数 総数990,249件 （内訳）図書527,836件 雑誌27,814件 視聴覚資料34,599件 ・都内公立図書館からの借用件数8,257件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数138件 | B インターネットによるニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関する申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型サービスの予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるよう工夫をしてもらいたいという要望はある。キャンセル機能が一層強化し、その点も踏まえながら対応してもらいたい。 他自治体の図書館向け遠隔複写サービスについても、実現を目指してもらいたい。 | ・引き続き、利用者のニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関する申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型サービスの予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるよう工夫をもらいたいという要望はある。キャンセル機能が一層強化し、その点も踏まえながら対応してもらいたい。 他自治体の図書館向け遠隔複写サービスについても、実現を目指してもらいたい。 | ・リクエスト受付件数 総数666,128件 （内訳）図書508,731件 雑誌25,789件 視聴覚資料31,608件 ・都内公立図書館からの借用件数8,932件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数110件 | B 大学図書館、専門機関等への紹介状のオンライン申請を開始し、利用者の利便性向上に努めた。 | ・引き続き、利用者のニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関する申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型サービスの予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるよう工夫をもらいたいという要望はある。キャンセル機能が一層強化し、その点も踏まえながら対応してもらいたい。 他自治体の図書館向け遠隔複写サービスについても、実現を目指してもらいたい。 | リクエストの受付件数は、だいぶ減少している。Webによるリクエスト件数も減少しており、気になる点である。貸出点数が減っているのにそれに連動した結果ではあるが、他の図書館からの借用件数が約700件増えしており、市民の要望をより把握することが必要である。また、リクエストをスマートフォンから行う場合、画面表示が小さいことや操作の際にログアウトしてしまうなど、使い方の改善や丁寧な説明に努めてもらいたい。 遠隔複写サービスは、著作権処理のその後を注視し、引き続き実現に向けて対応してもらいたい。 | |
| | (3) レファレンスサービス | ア 図書館資料のほか、オンラインデータベースやインターネットを活用して的確なレファレンスをすることによって、市民の暮らしの中での課題解決に応え、調査研究や学習を支えます。 イ 館内カウンターのほか、電話や電子メールなど、利用者のニーズに応じて幅広く窓口を設けることにより、レファレンスサービスを行います。 ウ 中央図書館は、地区図書館で受ける解決困難なレファレンスを支援します。 | ・相談受付件数 ・市民向けレファレンス講座の回数 ・職員向けレファレンス研修の回数 | ・相談受付件数5,361件、1日平均件数約16.6件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数29人「関東大震災から100年～首都直下地震への備えについて考える～」 ・レファレンス研修5回実施 | B 職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 | ・図書館資料、データベースなどを使用して、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルも多かったため、参加者が昨年程度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。 ・職員がスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルも多かったため、参加者が昨年程度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。 | B 職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルも多かったため、参加者が昨年程度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。 | ・職員がスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。 ・レファレンス講座は当日のキャンセルも多かったため、参加者が昨年程度程度であるが、申込受付後数日で定員に達した。 | 相談件数は減少している。インターネットや生成AIなどで簡易な調べものは済むようになり、相談件数の減少は府中市だけでなく全国的な傾向である。ただし、インターネット等を活用しても解決に至らない事例も多く、そのようなことに対応できるレファレンスサービスの役割についてより周知してもらいたい。 また、レファレンスサービスは図書館が提供できる専門性の高いサービスである。相談件数の減少は、利用者自身の探求力が上がってきたともいえるが、利用者自身でも偏った見方をしてしまう場合もあり、図書館職員が専門性を活かしてサポートする意義は大きい。また、「インターネットで検索しても出てこない情報があるので、図書館に来た」という利用者もいる。ハイブリッドな情報活用で「探すが」のある図書館職員を求めているとも言える。図書館職員のサポートによって、市民が誇りを持って「わがまちの図書館」と実感できるようになることに期待したい。 市民向けレファレンス講座は、一回行われた。「調べ力」や「情報検索」のコツやテクニックを学んでもらうという重要な役割を担っているが、それがストレートに伝わっていない場合もある。調べ方のスキルを身につけるための講座であることを分かり易く示す必要がある。たとえば、「調べたい（限）」とか「こんな見つけ方あります」とか、平易なキャッチコピーを前面に押し出す方法もある。開催回数にも特修や都立図書館への研修派遣を実施し、職員がレファレンス向上に努力したい。 | | |
| | (4) ビジネス支援サービス | ア ビジネス関係資料コーナーを設置し、資料及び情報を提供します。 イ 資格取得やキャリアアップのための資料及び情報を提供します。 ウ 市の産業振興部門などと連携し、産業活動や起業に関する資料及び情報を提供し、地域活性化を側面から支援します。 | ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価が高かった。参加人数43人「上はくのある仕事」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。 | ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価が高かった。参加人数43人「上はくのある仕事」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。 | B ビジネスに関する最新情報を提供し、各世代の抱える課題についてその問題解決や新たな目標設定に必要な情報が提供出来るようビジネス支援コーナーを設けて周知することには有効で、その取組を評価したい。ただ、コーナーがありながら、あまり目立たないため、企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 また、IT、特にAIの発展は経済・産業構造に大きな影響を及ぼしている。近時ではホワイトカラー層の労働環境の変化が指摘されてきており、地域においても自主学習を必要とする人が増えていくことになる。特に、経歴を指す人や、中小・個人企業への対応も必要である。こうした労働・経済環境への対応を明示的に支援するプログラムが必要である。 その点、ビジネス講座に43名が参加したことは評価できる。チラシ配布にとどまらず、講座は関係部署と連携しての実施や、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。また、ビジネス支援図書館推進協議会へ参加することも有効である。 | 現役の勤労者に有効な情報を提供し、各世代の抱える課題についてその問題解決や新たな目標設定に必要な情報が提供出来るようビジネス支援コーナーを設けて周知することには有効で、その取組を評価したい。ただ、コーナーがありながら、あまり目立たないため、企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 また、IT、特にAIの発展は経済・産業構造に大きな影響を及ぼしている。近時ではホワイトカラー層の労働環境の変化が指摘されてきており、地域においても自主学習を必要とする人が増えていくことになる。特に、経歴を指す人や、中小・個人企業への対応も必要である。こうした労働・経済環境への対応を明示的に支援するプログラムが必要である。 その点、ビジネス講座に43名が参加したことは評価できる。チラシ配布にとどまらず、講座は関係部署と連携しての実施や、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。また、ビジネス支援図書館推進協議会へ参加することも有効である。 | ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価が高かった。参加人数43人「未来につながるおもしろい話」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。 | B ビジネスに関する最新情報を提供し、各世代の抱える課題についてその問題解決や新たな目標設定に必要な情報が提供出来るようビジネス支援コーナーを設けて周知することには有効で、その取組を評価したい。ただ、コーナーがありながら、あまり目立たないため、企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 | ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価が高かった。参加人数43人「未来につながるおもしろい話」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。 | 近年、ビジネスへの関心も高まりをみせている。幅広いビジネス支援が必要であり、特に図書館では地域の中小企業や個人事業主向けの情報発信・情報提供も必要である。 また、ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。 ビジネス講座の開催が好評で、参加者の評価も高かった。特に、高まりをみせるビジネスリテラシーの動きなどを敏感に捉えながら他とは違う、図書館独自のビジネス講座が増えた、「仕事に役立つ図書」として利用の拡大につながっている。ビジネス講座担当職員の負担が過重にならない範囲で、講座の実施回数を増やすことも検討してもらいたい。 「こと情報コーナー」のガイド表示や商工会議所やビジネス支援を行っている団体などの関係機関との連携によってチラシ等の配布強化に努めている点は評価したい。なお、チラシ等の留まらぬ連携事業があってもよいのではない。 また、コーナーがありながらあまり目立たない。企画展示が同時に行われるなど、目立つ工夫が必要である。 ※リスキリング…企業が従業員に新たなスキルを身につけさせる取り組みや、個人がキャリアチェンジのためにスキルを学び直すこと。 | |

府中市立図書館サービス状況調査票

令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

| 基本方針 | 提供するサービス | 事業内容 | 指標 | (参考) 令和5年度実施事業の評価 | | | 令和6年度実施事業の評価 | | | | |
|------------------|------------------|---|---|--|---|--|--|--|---|---|--|
| | | | | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員の意見等 | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員等の意見 |
| 1 市民の生涯学習を支える図書館 | (5) ハンディキャップサービス | ア 図書館利用に障害のある市民にも利用しやすいよう、施設や機能を整備するとともに、きめ細やかな人的支援を行います。 イ 大活字本や点字図書、録音図書などの様々な資料を収集し提供する。全国的なネットワークを活用して利用者の幅広いニーズに応えていきます。 ウ 通常の活字による読書が困難な方へ、電子書籍などのアクセシブルな資料を提供するほか、対面朗読のサービスを行います。 エ 高齢や心身の障害など様々な理由で図書館に来ることが困難な方に、資料を郵送や宅配するサービスを行います。 オ 子どもたちが自分にあった方法で本の楽しさに出会えるように、布の絵本やさわる絵本、L1ブック（写真や短い文章などを扱い、読みやすく工夫されている本）などの様々な資料を収集し、「りんごの棚」として設置します。 | ・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌の所蔵数 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成） ・宅配貸出数（図書・雑誌・視聴覚資料） ・郵送貸出数（録音図書・点字図書） ・布の絵本、さわる絵本等の展示の回数 | ・蔵書数 大活字本3,626冊 点字図書701冊 録音図書924冊 布の絵本109冊 さわる絵本201冊 点字雑誌360冊 ・ボランティア活動 対面朗読302回 録音図書作成数5タイトル 布絵本作成数5タイトル ・宅配貸出数1,860点 ・郵送貸出数1,158点 ・特集展示1回 | B | ・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行い、利用者に提供することができた。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する予定である。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実行するとともに利用者拡大のための広報活動を行う。宅配貸出サービスの利用促進を図る。 ・地区図書館の巡回展示や心身障害者センターでの展示を通じて、利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本の一部を地区図書館に置くことで利用者の増加を図る。 | ・ボランティア団体と協働が維持されており、本の宅配、録音資料の作成などが適切に実施されている。ハンディキャップ資料の出張展示も良い取組であった。他の施設でも実施できると良い。 ・ボランティアを養成する各種講座が好評であることは望ましい。受講対象者の希望する分野を検証して講座企画や開催回数についても拡充されることが望まれる。特に音楽ボランティアの養成に係る講座については、継続・拡充することでより一層の取組サービスを実施できることになる。 ・「りんごの棚」（※3）の設置は評価するが、地区図書館や子育て施設などにも拡大できると良い。 ・ハンディキャップサービスの充実に向けて、読書バリアフリー推進計画の策定の検討、認知症の高齢者が安心して利用できるような認知症バリアフリーの取組を推進してほしい。 ・中央図書館でのハンディキャップサービスは充実してきているが、地区図書館での大活字本などは少ない。また、対面朗読、宅配・郵送サービスについても地区図書館や障害者団体、学校を通してすべての生徒たちにも図書館のハンディキャップサービスを周知するなど、より一層の広報が必要である。 ・対面朗読をするボランティアは多いが録音図書を作るボランティアがなかなか育っていない。また、対面朗読の回数が多いものの、利用している人数自体は決して多くないので、より多くの人が利用できるようなサービスの周知・広報の徹底が求められる。 ・対面朗読の方法についての工夫やりんごの棚の拡充が利用者の拡大に繋がると考えられる。 ・ハンディキャップサービスという名称は、利用者にもハンディキャップがあるという考え方を基に使用されている名称であるため、「読書支援サービス」といった名称への変更を検討してほしい。 ・広報に関しては、他の図書館の成功事例から、障がい者団体や医院などと連携してのアウトリーチ型の広報が有効なアプローチだと思われる。 | ・蔵書数 大活字本3,698冊 点字図書717冊 録音図書938冊 布の絵本112冊 さわる絵本201冊 点字雑誌371冊 ・ボランティア活動 対面朗読252回 録音図書作成数13タイトル 布絵本作成数3タイトル ・宅配貸出数2,011点 ・郵送貸出数1,161点 ・特集展示1回 | B | ・大活字本は古くなったものを除きつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する。今年4年度実施した音源ボランティアを活用し、技術向上のための講座を実施する。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実行するとともに利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本の一部を地区図書館に置くことで利用者の増を図る。 | ・ボランティア団体との協働が維持されており、適切な対応がなされている。宅配・郵送サービスも適行行われていて評価したい。引き続きボランティアの協力も得て、サービスの充実にも努めてもらいたい。 ・ハンディキャップ関連の資料やサービスの存在を知らない市民も多いと思う。例えば、より多くの視覚障害者に知ってもらうために、市内の眼科クリニック等の医療機関と連携して広報してほしい。 ・心身障害者福祉センター「きずな」で、布の絵本やさわる絵本の特集展示が行われたことを評価する。他の施設でも行えるとよい。また、子ども発達支援センター「はばたき」でも展示が行われていて評価したい。「はばたき」でも電子図書利用の紹介が必要であろう。 また、「読書バリアフリー基本計画」は、2025年4月から第2期がスタートした。府中市としても、「読書バリアフリー計画」の策定を検討してもらいたい。 なお、「ハンディキャップサービス」という名称は、近年あまり使われなくなっている。今後の課題として名称変更も視野に入れてもらいたい。 |
| | | ア 外国籍の方が自国についての情報や日本で暮らしていくための知識が得られるよう、英語、中国語、ハンダグなどの資料を収集し提供します。 イ 外国籍の方に対してわかりやすい館内サインの掲示や、利用案内を行います。 ウ 日本人が外国語を学ぶために役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料を収集し提供します。 | ・外国語資料のタイトル数 ・外国語資料非償借及び非償資料名等連絡票の案内用英訳を作成した。 ・特集展示1回 ・図書館だよりでの外国語資料紹介を行った。 | B | ・引き続き外国人だけでなく外国人語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集に努める。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。 | ・外国語資料も増えており、「図書館だより」での紹介や2回の特集展示もよかった。また、連絡票などの案内の英訳も役に立つ。外国語の雑誌・新聞についても、各種取り揃え提供されており評価する。 これからの社会の趨勢として国際化と多様化があげられる。その対応としては増加する外国人のためのサービスの拡充と、私たち市民一人ひとりの国際化の試みが必要である。その二つの観点から、未来志向の観点として位置づけ、より積極的な活動を展開すべきである。また、国際化は日本社会の多様化にもつながることから、広い意味でのユニバーサルサービスや、ジェンダーフリーを支える文庫や講座の充実も期待したい。 また、外国語の資料を拡充し、資料に辿り着くための表示を見易くすることを積極的に進めてもらいたい。外国語に感じられる図書館職員やボランティアを活用して外国人が求める情報で容易に学習できるよう親切な支援体制を検討することも必要であろう。 なお、「やさしい日本語」資料の収集と提供についても充実してもらいたい。 | ・外国語資料13,619タイトル ・特集展示1回 | B | ・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進をさらに拡充することができた。 | ・外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集をさらに拡充して行い、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。 | ・外国語資料も若干ではあるが増えている。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃え提供されており評価する。特集展示は、多文化サービスのPRになる。1回行われたことは評価するが、より利用を喚起するための工夫を今後も続けてもらいたい。 在留外国人は、国の想定を越えて増えており、訪日外国人旅行者数も増加の一途を辿っている。日本のグローバル化はトレンドの一つである。図書館サービスについても、引き続き、多言語の対応の充実や、市民の国際理解を進める企画（多文化理解、語学等の講座など）に取り組んでもらいたい。また、外国籍の方でも分かりやすい「やさしい日本語」を活用した取り組みも進めてはどうか。 |
| | | ア 市内の大学や企業、団体と連携し、様々なテーマの講座の開催や資料の展示などを行います。 イ 市内に活動拠点を置く団体に資料の貸出しを行うことにより、団体が支援します。 ウ 学習室、読書室を整備し、市民の学習環境を提供します。 エ 子どもから高齢者まで幅広い年齢に向けた読書活動を促進するとともに読書への関心が高まるような事業を展開します。 | ・図書館講演会の回数 ・ワークショップ、朗読会等の回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数 | B | ・講演会・イベントについて、コロナ禍前の通常の募集人数・回数に戻して開催できた。 ・ワークショップ、朗読会4回実施（参加者：延べ54人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ24人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ59人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ51人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ36人） ・企画テーマ展示93回 ・団体貸出 48団体 6,318冊貸出 ・学習室の利用人数 103,369人 ・グループ研究室の利用件数 114件 ・研究個室の利用人数 3,050人 ・新たに3階メディア通り特集棚を増設したことにより企画テーマ展示を増やし、利用者が展示資料を手に取りやすい環境整備を行った。 | B | ・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持つよう、魅力ある講座や展示を開催する。 ・ワークショップ、朗読会、企画テーマ展示に併せ、市内トップチームと連携し、特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出しを行い、読み聞かせや貸書会などの支援を行った。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。 | ・図書館講演会4回（参加者：延べ213人） ・ワークショップ、朗読会6回実施（参加者：延べ161人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ29人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ59人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ59人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ34人） ・企画テーマ展示110回 ・団体貸出 55団体 5,967冊貸出 ・学習室の利用人数 108,484人 ・グループ研究室の利用件数 172件 ・研究個室の利用人数 3,403人 | B | ・市制70周年記念として、著名な児童作家を講師とする講演会をコンベンションホールで開催された。 ・市を活動拠点とする読書フェアイベントの開催に併せ、府中アスレティックFC女子チームと連携し、特集展示を行った。 ・市制70周年に併せ、府中ではじめて、多摩地域、東京地域の特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出しを行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。 | ・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持つよう、魅力ある講座や展示を開催する。 ・FIFAワールドカップの開催に併せ、府中アスレティックFC女子チームと連携した展示イベントの実施について検討する。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。 |

府中市立図書館サービス状況調査表
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

| 基本方針 | 提供するサービス | 事業内容 | 指標 | (参考) 令和5年度実施事業の評価 | | | | 令和6年度実施事業の評価 | | | |
|---|-----------------|--|--|--|--|--|--|---|--|---|--------|
| | | | | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員の意見等 | 実績 | 評価 | 今後の方向性 | 委員等の意見 |
| 2 子 ど も の 生 き る 力 を 育 み 、 青 少 年 に も 魅 力 あ る 図 書 館 | (8) 児童サービス | ア 魅力ある絵本やよみものを豊富に揃えるとともに、本の配架やテーマに沿った展示を工夫し、子どもたちが本の楽しさに出会い、自ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービスを提供します。 イ 読書相談や子どもたちから寄せられるレファレンスに対応します。 ウ 乳幼児期からの読書への働きかけが読書習慣を形成するうえで大切などから、豊富な乳幼児向け資料を用意し、親子が気軽に立ち寄れる場を提供します。 エ おはなし会や読書キャンペーンなどの行事を定期的に行い、子どもたちへ本の楽しさや、本との出会いの場を提供します。 オ 健全育成及び安全性などに配慮し、子どもたちが安心して利用できる環境を提供します。 カ 子育て中の親、または育児に関わる大人が利用しやすい読書環境を整備し、子どもと一緒に本を楽しむ場を提供します。 | ・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちやん絵本文庫の回数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 | ・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちやん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 11回（※荒天のため12回のうち1回中止） 延べ103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」の策定 | A ・各種イベントについて、概ね大きな制限なく実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、参加者の増加に寄与することができた。 ・市内関係部署と連携し、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする「第5期府中市子ども読書活動推進計画」を策定した。 | ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。 | ・児童サービスについて多彩な事業が行われている。また、おはなし会は年齢にあった企画で行っている点も良い。図書館利用が少なくなり始める小学校高学年向けの「よむよむ探検隊（ブックトーク）」なども評価できる。また、「赤ちやん絵本文庫」も子育て支援として良い取組である。タイリナー企画展示や講演会も評価したい。パワレット類の作成・更新も適切であった。 ・子ども時代の学習経験は特に重要である。読書による効能について直接的に伝えることは重要な施策と考える。学習することの楽しさを広げ、関心と呼ぶような図書を多く広く展示してほしい。 ・現在も行われているが、地区図書館や文化センター行事と連携しておはなし会などをより積極的に行ってほしい。 ・学習意欲のある子どもを手助けし、情報提供や問題解決への支援を行うことは非常に重要であり、図書館職員がその助けとなる仕事をしていると思うことも重要である。 ・図書館職員がその助けとなる仕事をしていると思うことも重要である。 ・図書館職員がその助けとなる仕事をしていると思うことも重要である。 ・図書館職員がその助けとなる仕事をしていると思うことも重要である。 ・図書館職員がその助けとなる仕事をしていると思うことも重要である。 | ・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちやん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・小さい子のおはなし会の際に、絵本の紹介等のアテ講義と、乳幼児と保護者が関りに気兼ねなく館内に滞在する親子DE読書タイムを実施した。（中央） ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人 | B ・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。 | ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組に期待して、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてほしい。 | |
| | (9) ヤングアダルトサービス | ア 中学生・高校生世代に、日常生活や成長過程に沿ったテーマの資料を揃え、読書への働きかけを行います。 イ 青少年世代同士の情報交換の場を設けます。 | ・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けイベントの回数 | ・企画テーマ展示 5回 ・夏休みキャンペーン「My Favorite Things×ラグビーのまち府中へ君にバズ！撃つよう「お風呂入り」ボール～」延べ30人※明風中学校2年生と協働 | B ・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に夏休みキャンペーンでは、ラグビーワールドカップに併せ、市内トップチームの選手とのコラボイベントとして実施することができた。 | ・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを行ってきた。読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館ボランティアの体験を経験する機会を増やしつづける。 ・なお、中高生世代の「不読」（特に高校生は不読率5割）がよく指摘される一方で、よく本を読む中高生の変や声はあまり表に出てこない。部活をやっているが受難勉強をしても本をよく読む中高生の読書術などを積極的に発信する必要がある。 ・多様な中高生世代に図書館利用の有効性を説く機会が重要である。社会に生きる知識を学ぶには自分で検索し、自分で知識に迫り着く過程が如何に重要であるかを知らせることも必要である。ネット検索で容易に結論だけを得ても理解されるものは限られている。目下の直接的結論ばかりではなく、多様な情報の中から最も適当な答えはどれかを探る過程が大切であると感じてもらうために、人と人との接触による学習は不可欠である。また、ネットで得た知識をどのように活用するかということも知るべきである。図書であれネット情報であれ、そこで得た知識をいかに活用するか、そのためには適切な助言が必要である。図書館の企画として支援が出来るイベントがあることが望ましい。 ・中高生を特に「ヤングアダルト（※4）」と分類してサービスを提供することは、特に不読率が高く、本を読まなくなってしまう傾向のある世代であるため、必要であるが、「ヤングアダルト」という名称はあまり一般的ではなく、当事者にとっても自分たちのことを表しているという意識も希薄である可能性もあるため、「ティーンズ」などの名称に変更を検討しても良いのではないかと考えている。また、当該コーナーの場所・蔵書内容については中高生世代自身の意見を参考にして、工夫することが重要と考える。 ・（9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 ・また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてほしい。 | ・企画テーマ展示 5回 ・市制施行70周年記念読解イベント「消えゆく図書館と謎の未来日記」公演 延べ6人 再遊型延べ32人※市立中学校の職場体験生にテストプレイを体験してもらい、難易度や改善点について意見をもらった。 | A ・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に市制施行70周年記念読解イベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができた。来館へつづけた。 | ・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へつづける。 ・市制70周年記念読解イベントは、ヤングアダルト世代にとって興味深いイベントで参加者も多かった。図書館を再認識してもらい取り組みになったと思う。とくに図書館が提供する情報の感性に合った取り組みを図書館が提供することの意義は大きい。今後も中学、高等学校との協働事業を拡大し、彼らの感性に訴える取り組みを行ってほしい。 ・また、ヤングアダルトコーナーには、小読だけでなく、実用的なニーズをキャッチした資料が必要なのではないかと、若者たちの感性にあったノンフィクション資料も充実してほしい。同時に、ヤングアダルト世代が、書籍から学ぶこと、画面で学ぶこととの違いが分かるように、それぞれの特徴を分かりやすく説明し、情報の質や量の違いを実感できる場を設けてみてほしい。 ・府中市の友好都市の大学などの情報も配架して、相互交流を行い、府中市に貢献することで市内や、国内に留まらない国際人の育成の土壌づくりを目指してほしい。 ・成人年齢が下がったことで、成人の意義を学ぶ機会を広げたり増やしてはどうか。若者の投票率が問題になっていない今日、選挙が自分自身の日々の暮らしにどのように関わっているのかを知るための展示や講座があってもいいのではないかと。 ・また、現代の政治や社会状況などについても青少年が学ぶ機会を感じさせる情報発信があってもよい。サポーター広告を入れた読書通帳を導入して、本質的にアプローチすることも有効だと考える。 ・中学、高校生世代は、スマートフォンを持っている人が多いので、電子図書館を活用してスマートフォンから読書・購読のような働きかけもほしい。 ・府中市立小中学校教育研究会図書館研究部の小中学校での研修で、中学校の図書室を担当する司書の方に講師をお願いして、中学校図書室の本の種類、見せ方、本の備え方などを学んだことがある。その経験を小学校の6年生児童に伝え、中学校への進学を楽しみにしてもらったことがある。入学、進学に向けて、他の学校の図書室に目を向け、連携することは効果的であり、図書館からもサポートしてほしい。 ・「ヤングアダルト」が図書館用語であることは尊重するが、利用者向けに提示する場合は一考が必要で、中学、高校生などに響くような表現が必要である（「ヤングアダルト」が外せないならば、併記しても良い）。ヤングアダルトより若い世代に伝わりやすい表現が必要である。 ・また、学校や図書館で行われる推薦図書は往々にして読書の押しつけ的印象になりがちで、若い頃の読書体験談や思い出を学校の先生から募ったり、著名人のエッセイから引用したりして、若い頃の読書がどれだけ心の栄養となるのかを伝える試みもほしい。 | | |
| | (10) 学校支援サービス | ア 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援を行います。 イ 学級貸出を行い、資料の支援を行います。 ウ 学校からの要請で、まちなけんや社会科見学、中学生などの職場体験などの受入れを行います。 | ・学級貸出の貸出総数、1クラス平均冊数 ・まちなけん、社会科見学の受入人数 ・職場体験受入人数 | ・学級貸出 貸出総数 12,618冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：4.3冊 ・まちなけん、社会科見学などの受入人数 中央：2回 地区：15回 ・職場体験受入人数（中央）10校35人 ・職場体験受入人数（地区）9校38人 | B ・学級貸出を継続して行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちなけんや社会科見学、職場体験等の受入れを行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 | ・学級貸出数及びまちなけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・引き続き、まちなけんや社会科見学、職場体験等の受入れを行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 ・（9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 ・また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてほしい。 | ・学級貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちなけん、社会科見学などの受入人数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入人数（中央）6校22人 ・職場体験受入人数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校1校 中学校1校 | A ・学級貸出及びまちなけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・市立中学校の職場体験については、中央、地区図書館それぞれで受入れを行った。 ・学級貸出の案内の見直しや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動を行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。 | ・「まちなけん」や社会科見学、また、各図書館での職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして「小学校出張おはなし会」や「小学校出張ブックトーク」が行われたことを評価する。 ・また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のイブリッドな学校支援に期待している。 ・学校貸出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組みすることができる。 ・学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進しているが、電子書籍の冊数が増えている。児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかきの本を置くという指導が立っているという声もある。 ・「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における読書数、新聞を読む機会が増えている中で、学校図書館や公共図書館の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携、支援を行い、学校司書対象に魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちなけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでほしい。 | | |

